

こども食堂での影響・効果を先行論文から探る

こども食堂など、地域の交流拠点で生じる影響・効果について、先行論文調査（論文サーベイ）を行いました。2000 年以降の計 280 論文を抽出して内容を確認しました。こども食堂そのものに関する論文は少なく、特に定量的に調べた研究は見つかりませんでしたが、他の交流拠点での効果を実証的に示す論文はいくつも見つかりました。こども食堂でも同様のことが起きている可能性がおおいにあります。

◆月 1 回の活動でも効果がある

非常設カフェ（公共施設で短期開催）⁽¹⁾、子育てサロン（月 1 回開催）⁽²⁾、高齢者サロン（月 1～2 回開催）⁽³⁾ など開催頻度があまり高くない交流活動や、小中学校のあいさつ運動⁽⁴⁾ のように濃密ではない交流活動であっても、参加者や周囲にプラスの影響があることが先行論文で示されていました。同様の調査をこども食堂に対して行えば、同様の影響・効果が確認できる可能性が高そうです。

◆交流によって地域活動の担い手が育つ

「地域愛着」→「地域への協力意向の高まり」、「地域愛着」→「地域活動への参加」という論理展開は多くの論文で見られました。

期間限定の非常設カフェに関する論文では、カフェで飲食した市外からの観光客でも、相席して知らない他者と会話することなどで、その地域への愛着が芽生え、地域の活動への協力意欲が高まることが定量的に示されていました⁽¹⁾。

また、小中学校でのあいさつ運動に関する論文では、周囲の人からあいさつされたり、周囲の人にあいさつしたりする頻度が高い子どもほど、地域への愛着が増し、他者を援助する行動につながることを定量的に示されていました⁽⁴⁾。こども食堂で知り合った人たちは、町で会えばあいさつを交わす以上の関係だと考えられ、同様の効果が期待できそうです。

◆交流の場への参加で、孤立が解消される

月に 1、2 回、高齢者が集うサロンに参加することで、参加者の 7 割近くがサロンの外でも付き合う友人知人ができ、そのうち 8 割以上が月に 1、2 回以上連絡を取り合う仲になったという調査結果がありました⁽³⁾。月 1 回開かれる子育てサロンに参加した若い母親が次第に他の参加者に溶け込み、運営にも参画するようになったという事例研究もありました⁽²⁾。

月に 1 回から数回程度の通いの場での出会いによって、他者とのつながりが増え、社会的孤立を軽減・解消できる可能性が示されたものです。同じことはこども食堂でも起こりうると考えられます。

【参考文献】

- (1) 小林重人ら、2015 年「サードプレイスにおける経験がもたらす地域愛着と協力意向の形成」
- (2) 相戸晴子、2019 年「地域の子育て支援活動に参加する親子の生活行動の変容」
- (3) 森常人、2014 年「ふれあい・いきいきサロンの参加者評価の分析に関する一考察」
- (4) 村山幸子ら、2020 年「児童・生徒のあいさつ行動と地域愛着および援助行動との関連」